

# 山の資源・エネルギーと近現代日本の消費社会

中 西 聡

## 1 はじめに

慶應義塾大学の中西聡です。本日は、お招きいただき大変有難うございました。私は、もともと漁業・海運の研究をしており、四方を海に囲まれた日本における海の豊かさが陸の産業化にどのように投入されてきたかの視点から考察を深めてきました。また、日本は山がちな国土で、山の豊かな資源もあり、現在は、山の豊かな資源が陸の産業化にどのように投入されてきたかの視点から研究を進めています。その際、山の資源として、用材・薪炭などの林産資源、石炭などの鉱物資源、そして山間部の川を利用した水資源を考えたいと思います。水資源は、平野部では主に飲用・農業用で利用されましたが、山間部では水力発電や水車など、エネルギー・動力源としても利用されました。そして、薪炭は、明治期は主に産業用燃料（薪は家庭用燃料としても重要）として利用されましたが、産業用燃料が石炭に転換するなかで、大正期以降は木炭が家庭用燃料としても利用されました。

石炭は、日本では蒸気機関燃料として主に利用され、近代期はガス製造の原料としても利用されましたが、日本産の石炭は炭質からみて製鉄業の燃料としては不向きであり<sup>1)</sup>、官営八幡製鉄所などでは主に中国産の石炭が燃料用に利用されました。また水資源では、水車が早くから産業用動力源として利用されましたが、明治期に始められた火力発電が、燃料炭のコスト高などのために次第に水力発電へと転換しました。そして山間部の水力発電所から長距離送電により都市部の家庭用電灯に電気が供給され、工業化の進展とともに、産業用エネルギーとしても電力が用いられ、大正期には電動機が広く普及しました。

ここで留意したいのは、山の資源が家庭用エネルギー源として広く利用され

た側面です。薪は、明治期の家庭用燃料の中心でしたが、大正期以降は木炭が広く利用されることで、煙のあまり出ない家庭生活が可能となりました。石炭は近代日本の家庭用エネルギー源とあまり関連がないようにも思えますが、ガス製造の原料として主に大正期以降に都市で供給されるようになった家庭用ガスと関連します。そして、水力発電が都市における電灯普及に大きな役割を果たしました。こうして、木炭・ガス・電気をを用いた生活様式が大正期以降の都市生活の主流となり、大都市では「消費社会」が萌芽的に登場しました<sup>2)</sup>。

こうした「消費社会」化は、昭和恐慌や戦時期の消費抑制により一時的に停滞しました。ところが、戦時期に消費が抑え込まれた反動で、敗戦後の復興期に消費需要が急増しました。そして政府も国内資源として林産資源と石炭を重視し、林産資源の確保のために補助金を出して森林伐採と植林を急増させ(拡大造林)、また資材と労働力を集中的に投入して石炭の採掘を急増させました(傾斜生産)。林産資源と石炭に依存した戦後復興を目指したと言えます。電力事業でも、水資源を利用した大規模ダム式発電所が多数設立され、都市生活や産業用に電力が供給されました。

戦後復興期に外国との貿易が制限された状況下では、国内資源の極限の利用はやむを得ないかもしれませんが、外国との貿易が再開されると、1960年前後から安価な石油と安価な木材が大量に輸入され始めました。エネルギー源の薪炭・石炭から石油への転換が急速に進み、用材も国産材に代わって輸入材が用いられるようになり、国内の森林資源は伐採が進まず多くが放置されています。水力発電についても、石油利用の火力発電への転換が進み、水力発電所の運転が休止しました。そして、こうした安価な石油資源に依存した「消費社会」化が、都市部のみならず、石油を原料として製造されるプロパンガスの普及などで農村部まで浸透したため、高度経済成長期の日本は「消費社会」化が全国化しました<sup>3)</sup>。

むろん、1970年代の石油ショックで石油資源への依存を低める動きが見られましたが、それが国内の林産資源・石炭資源・水資源の再利用へとはあまり向かわず、外国からの天然ガスの輸入に主に向かったため、現代でも日本では資源・エネルギーの多消費型の生活様式は続いています。ただし、そのエネルギー源を輸入に頼っていることに問題が残り、現在のロシアのウクライナ侵攻のなかで、エネルギー問題が再び顕在化しました。

そこで、今回の講演では、近現代日本でどのように山の資源が利用されてきたかを跡付けて、国内資源の再利用に向けての可能性を探りたいと思います。

## 2 両大戦間期日本の消費生活

前述のように、日本で「消費社会」の萌芽が見られたのは、1910年代後半～30年代の両大戦間期でした。この時期は、都市工業の発達とともに都市人口が増大して、都市化が進みました。例えば、三大都市の現住人口の推移を見ますと、1903年末時点で、東京約182万人、大阪約100万人、名古屋約29万人、13年末時点で、東京約205万人、大阪約140万人、名古屋約45万人、20年10月時点で、東京約217万人、大阪約125万人、名古屋約43万人、30年10月時点で、東京約207万人、大阪約245万人、名古屋約91万人、40年10月時点で、東京約678万人、大阪約325万人、名古屋約133万人でした<sup>4)</sup>。

東京は、20世紀初頭の時点ですでにかなりの大都市になっていましたが、1920年代に市域を拡大した名古屋と大阪の人口が急増し、30年代に東京が市域を拡大して人口を急増させました。市域の拡大は、市街地の拡大につながり、「消費社会」の地域的広がりにつながります。そして、「消費社会」を体現するものとして近代的百貨店が大都市で登場しました。そこで、東京・大阪・名古屋の三大都市のいずれでも開店した松坂屋の事例を紹介します<sup>5)</sup>。

松坂屋（会社名はいとう呉服店）は、近世来の大規模呉服店でしたが、1910年に名古屋本店を改築して、建物を洋風にするとともに陳列立売方式を導入しました。それまでの呉服店が、顧客が座敷に座って店員と商談する販売方式であったのを、商品を陳列して、そのなかを顧客が回って自分で商品を選ぶ方式を採用したのです。ただし、1910年代の松坂屋は高級化路線を取り、店内で文化催事を行ったり、訪問・出張販売を行うなど、大勢の顧客を集客する発想はあまりありませんでした。ところが、定期的に行った在庫処分セールが、普段は値段が高すぎて購入できない顧客に人気で、松坂屋も高級品のみでなく実用品の販売も考えるようになりました。そして1917年に東京の上野店を改築して新店舗にした際には、高級呉服に加えて銘仙などの中級品も販売し、実用品需要へも対応しました。

そこへ1920年恐慌が到来し、生活に困窮した人々が百貨店の廉価販売に期

待し、松坂屋も産地で商品を大量に買い付けて安値大売出しを開催しました。この時は、松坂屋へ顧客が殺到し、上野店では安値大売出し期間中に1日平均約37,000人が上野店に来場しました。現代からみてもかなりの来客数で、このことが松坂屋の大衆化の契機となりました。1923年に関東大震災が起り、東京の百貨店は大打撃を受け、松坂屋上野店も焼失しました。松坂屋は、被災した人々のために東京市内を巡回して衣類・雑貨の廉価販売を行いました。その際に松坂屋は、名古屋と大阪にも店舗があったためそこから商品を東京へ送りました。

関東大震災のあった1923年の末に松坂屋は早くも仮店舗で上野店を再開し、翌24年には銀座店を新規開店しました。ここで重要であったのは、1924年に設立された銀座店が土足入場方式を採用したことです。それまでの松坂屋は、陳列立売方式を導入したとしても、店舗に入る際に、来店客に土足から上履きに履き替えて入場してもらっていませんでした。そのため、多くの入場者をうまく誘導することができませんでした。

履き替えてもらった理由は高級陳列品が汚れないようにすることでしたが、百貨店の品揃えで中級品が多くなるにつれ、その理由も小さくなり、より多くの顧客に入場してもらうため、土足でそのまま入場してもらうことになりました。土足入場は、1925年に名古屋店、27年に大阪店でも取り入れられ、呉服以外の商品部門の比重が増えた結果、1925年に会社名をそれまでの「いとう呉服店」から松坂屋に変更しました。もちろん呉服部門はその後松坂屋の主力商品部門でしたが、そのなかでも高級品から廉価品が中心となり、端切れ単位での販売も行われました。1929年には上野店が新築開店しましたが、同年の年間入場者数は、名古屋本店が約735万人、上野店は約1,356万人となりました。いかに都市消費社会に百貨店が埋め込まれていたかが窺われます。

ただし、廉価大量販売が松坂屋にとって経営面でプラスに働いたかどうかは留保が必要で、利益率は1920年代に減少し、そして29年からの昭和恐慌に見舞われました。それに対して松坂屋は、1932年の三大綱要で、廉価販売と品揃えの敢行、および底値仕入と販売効率向上を掲げ、それまでの顧客本位の経営から、商品部門制度を導入して、部門間の競争を行わせることで販売効率性を上げる経営への転換を図りました。

実際の都市住民の消費生活を、阿部市太郎家に即して検討したいと思いま

す<sup>6)</sup>。阿部市太郎家は滋賀県能登川に本宅のある近江商人で、幕末・維新时期までは主に麻布を国内各地に販売していましたが、明治期に大阪に綿製品を扱う商店を開設し、兵庫県住吉に居宅を設けるとともに、大阪と能登川の往復途上で滞在するために、京都に別邸を取得しました。

表1は、阿部市太郎家の京都別邸の1920年代の家計支出を示したものです。月により全体の支出額にはかなり差がありましたが、ガス代・電灯代を毎月支出し、電話料・水道料も3ヶ月に1回程度支出し、ガス・電気・電話など都市生活で提供されたインフラを享受していました。町会費・新聞代も毎月支出し、住み込みの書生がいたと考えられ、それら書生への学資金も毎月支払われました。店舗からは「付け」で物品が購入されましたが、近くの小売商からで、百貨店からの購入頻度は少なかったと言えます。東京・名古屋・大阪に比べると、京都では百貨店の展開は少なく、老舗小売店からの購入が根強く残ったことは京都の都市生活の特徴とも言えます。

表2は、1930年代の京都別邸の家計支出を示したものです。全体の支出額は1920年代とそれほど変わりませんが、光熱費として電灯料と電熱料が合わせて支払われ、電気を利用した炊事用具を使っていたことが推測できます。ガス代の支出は1920年代とあまり変わらず、家庭内エネルギーの中心は電気でした。自転車税の支払いがあり、自転車を所有しており、自動車代が支払われたのでタクシーも利用されたと思われます。洋服の購入も見られましたが、洋服の洗濯を百貨店に依頼しており、阿部市太郎家は、新しい専門的なサービスに対して百貨店を利用していました。ただし、その後、戦争の影響が阿部市太郎家の消費生活に見られます。例えば、1941年から食料配給制度のもとで、米や木炭の配給を受け、防空・防災のための町会費の支出も急増しました。そして1941年11月に貯蓄債券の30円の購入が見られました。

一方、阿部市太郎家は1930年代に居宅を住吉から兵庫県夙川へ移しましたが、その夙川での消費生活を表3で示しました。夙川は阪急電鉄沿線で、阿部市太郎家は阪急電鉄を利用した娯楽生活を楽しみました。阪急電鉄は、京都市・大阪・神戸を結んでおり、宝塚や京都や大阪での観劇、京都・大阪・神戸の百貨店での買物で阪急電鉄を利用したと考えられます。そして甲子園での野球観戦の際も、途中までは阪急電鉄を利用したでしょう。阪急電鉄の創業者である小林一三は、電気鉄道沿線での住宅地開発と電気鉄道ターミナルでの

金額の単位：円

表1 阿部市太郎家京都別邸家計支出の内訳1(1920年代)

| 年月      | 入     | 出   | 差引  | 瓦斯代  | 電灯料  | 電話料   | 水道料  | 旅費  | 市電<br>バス | 町会費 | 新聞代 | その他主要支出  |
|---------|-------|-----|-----|------|------|-------|------|-----|----------|-----|-----|--|
| 1921・4  | 163   | 163 | 0   | 7.6  |      |       |      | 3.8 |          | 1.1 | 1.2 | 寿司(1.75)   |
| 1921・5  | 90    | 134 | △44 | 14.5 | 7.9  | 8.4   |      | 1.1 |          | 1.1 |     | 駆虫薬(3.8)、一歩金(2.2)、ドジョウ鍋(1.2)                                 |
| 1921・6  | 50    | 44  | △6  | 15.7 | 7.9  | 4.4   |      |     |          | 1.1 |     |  |
| 1921・7  | 30    | 57  | △27 | 7.6  | 8.1  | 14.5  |      |     |          | 1.1 | 1.2 | 人夫心付(12.0)、ドジョウ鍋(1.0)  |
| 1921・8  | 95    | 82  | 13  | 5.8  | 7.8  |       |      |     |          | 1.1 |     | ビール(2.85)、ドジョウ鍋(2.0)、防虫香(1.25)                               |
| 1921・9  | 36    | 40  | △4  | 13.0 |      | 8.6   |      |     |          | 1.1 |     | 蕎麦(1.8)  |
| 1921・10 | 165   | 169 | △4  | 7.9  | 7.3  | 12.6  |      |     |          | 1.4 | 1.2 | 下男給金(6.0)、大根漬物(2.6)、郵便受け(1.3)                                |
| 1921・11 | 0     | 71  | △71 | 4.3  |      |       |      |     |          | 1.4 | 1.2 | 大根漬物(1.02)   |
| 1921・12 | 84    | 73  | 11  | 6.4  | 16.1 |       |      |     |          | 1.4 |     | 税金・使用料(402.34)、風呂敷2枚(6.0)、祝儀(3.0)、寿司(2.1)、掛軸(1.5)、うどん(1.1)   |
| 1922・1  | 451   | 444 | 7   | 6.7  |      |       | 2.4  |     |          | 1.4 | 1.2 | ガス灯修繕(0.93)  |
| 1922・2  | 64    | 42  | 22  | 12.1 | 16.5 |       |      |     |          | 1.4 |     |  |
| 1922・3  | 103   | 84  | 19  | 10.0 | 6.4  |       |      |     |          | 1.4 | 1.0 | 土地借料(231.27)、書生4名学資金(138.0)                                  |
| 1923・4  | 451   | 442 | 9   | 10.0 | 8.1  |       |      |     | 1.0      | 1.9 |     | 書生4名学資金(130.0)、町会へ寄付(5.0)、土地使用料(4.0)、ガス器具(0.5)               |
| 1923・5  | 198   | 192 | 6   | 10.0 | 8.3  | [1.4] |      |     | 1.0      | 1.9 |     | 書生4名学資金(130.0)   |
| 1923・6  | 177   | 173 | 4   | 13.4 | 8.3  | [1.2] |      | 1.3 | 1.0      | 1.9 |     | 家屋税・宅地租(585.71)、雇人(10.0)、掃除代(1.0)、鮎決ま綿修繕(0.5)                |
| 1923・7  | 640   | 625 | 15  |      | 8.3  |       | 7.3  |     | 1.0      | 1.9 |     | 西瓜(1.0)  |
| 1923・8  | 55    | 47  | 8   | 6.1  | 8.3  |       |      |     | 1.0      | 1.9 |     | 書生3名学資金(113.0)、草履・麻縄(2.62)                                   |
| 1923・9  | 164   | 156 | 8   | 8.2  | 8.3  |       |      |     | 1.0      | 1.9 |     | 書生4名学資金(300.0)   |
| 1923・10 | 383   | 357 | 26  | 6.1  | 8.3  | 12.5  |      |     | 1.0      | 1.9 |     | 蒸鍋(0.9)  |
| 1923・11 | 71    | 36  | 35  | 8.5  | 8.3  |       | 22.2 | 1.0 | 1.0      | 1.9 |     | 大根300本(6.0)、炭切鎖(1.0)   |
| 1923・12 | 85    | 75  | 10  | 14.3 | 8.3  |       |      |     | 1.0      | 1.9 |     | 書生2名授業料(31.0)、いろは餅(3.3)、すりつば(2.5)、葉(1.45)                    |
| 1926・1  | 64    | 63  | 1   | 7.6  | 7.3  | [3.4] |      |     | 6.0      | 1.9 |     | 下男給金(37.0)、カキ鍋(3.1)、病院行(2.4)、腕時計修繕(1.0)、パン5斤(0.9)            |
| 1926・2  | 104   | 99  | 5   | 7.6  | 7.3  | [3.4] |      |     | 1.0      | 1.9 |     | 腕時計直し賃(0.5)  |
| 1926・3  | 58    | 49  | 9   | 7.0  | 7.9  | [2.7] |      | 1.4 | 1.0      | 1.9 |     | 2.8 河岸借地料(551.28)、家屋税(372.22)、円タク(3.0)、自転車税(2.87)、ちまき道具(1.4) |
| 1929・4  | 1,004 | 991 | 13  | 6.1  | 7.9  | 15.8  |      |     | 1.0      | 2.9 |     | 主人に返金(250.0)、炭代(4.55)  |
| 1929・5  | 302   | 300 | 2   | 8.3  | 7.9  |       | 2.6  |     | 1.0      | 2.9 |     | 使用人月給(26.0)、時計修繕(9.0)、天婦羅(1.8)、診療薬料(1.7)、円タク(1.0)            |
| 1929・6  | 457   | 425 | 32  | 6.4  | 7.9  |       |      | 2.3 | 2.9      | 2.9 |     | 古鏡社(12.0)、畳屋祝儀(9.5)、御神酒(3.0)、電気コード(2.6)                      |
| 1929・7  | 67    | 93  | △24 | 9.3  | 7.9  |       |      | 1.5 | 1.0      | 2.9 |     | 書生2名学資金(113.0)、草履・麻縄(2.62)                                   |
| 1929・8  | 40    | 38  | 2   |      | 7.9  |       |      | 2.5 | 2.9      | 2.9 |     | 家屋税・宅地租(585.71)、雇人(10.0)、掃除代(1.0)、鮎決ま綿修繕(0.5)                |
| 1929・9  | 69    | 33  | 36  | 3.7  | 7.9  |       |      |     | 1.0      | 2.9 |     | 社会事業寄付(1.0)、救世軍寄付(1.0)                                       |
| 1929・10 | 46    | 37  | 9   | 4.6  | 7.9  |       |      | 1.5 | 2.9      | 2.9 |     | 漬物贈物(5.45)、失業人救助金(1.0)                                       |
| 1929・11 | 47    | 43  | 4   | 4.6  | 7.9  |       |      | 4.7 | 1.0      | 2.9 |     | 浦餅(1.7)、天婦羅(1.6)   |
| 1929・12 | 52    | 41  | 11  | 5.2  |      | [1.0] |      | 1.1 | 1.1      | 2.9 |     | 家屋税・宅地租(599.54)、書生学資金(51.0)、いろは餅(4.56)、墓守祝儀(3.0)、時計修繕(2.5)   |
| 1930・1  | 703   | 703 | 0   | 15.2 | 9.1  |       |      | 1.0 | 1.0      | 2.9 |     | 茶道月報1年分(5.0)、写真帖(1.5)  |
| 1930・2  | 55    | 27  | 28  |      | 6.8  |       |      |     | 1.0      | 2.9 |     | 墓守寺住職料(5.0)、椅子張替(4.0)、醍醐天皇千年忌寄付(2.0)、ライオン園庭(0.4)             |
| 1930・3  | 53    | 46  | 7   | 5.5  | 7.5  |       |      |     | 1.0      | 2.9 |     |  |

(出所) 中西聡・二谷智子『近代日本の消費と生活世界』吉川弘文館 2018年、344-345頁の表82より作成。  
 (注) 表で挙げた月の金銭出入合計、および主要な支出内容について示した。差引欄の△は収入より支出が多い場合を示す。電話料欄の[ ]内は市外通話料。

表2 阿部市太郎家京都別邸家計支出の内訳2 (1933~42年)

金額の単位：円

| 年月      | 入   | 出   | 差引  | 瓦斯代  | 電灯・電熱 | 電話料   | 水道料  | 旅費   | 市電  | 町会費  | 新聞代 | 花の会費 | 美術大観 | その他主要支出   |
|---------|-----|-----|-----|------|-------|-------|------|------|-----|------|-----|------|------|---|
| 1933・4  | 517 | 517 | 0   | 9.2  | 28.3  | [2.6] |      |      |     | 2.8  | 1.8 | 1.8  | 5.0  | 借地料(411.28)、正福寺知合会費(12.0)、自転車税(2.35)、煙突掃除器(1.0)                 |
| 1933・5  | 82  | 80  | 2   | 16.3 | 21.2  | [2.1] | 3.2  |      |     | 2.8  | 1.8 | 1.8  | 5.0  | 飼料(2.37)、ちまき(1.3)、障子張替紙(1.25)、葉代(1.2)                           |
| 1933・6  | 81  | 56  | 25  | 7.5  | 15.0  | [3.6] |      |      |     | 2.8  | 1.8 | 1.8  | 5.0  | 茶道月報(2.25)、洋服洗濯丸(1.5)、靴修繕(1.5)                                  |
| 1933・7  | 137 | 119 | 18  | 7.7  | 14.7  | [2.3] |      |      |     | 2.8  | 2.5 | 1.8  | 5.0  | 堂屋祝儀(7.5)、料理器試験料(6.0)、洋服洗濯丸(6.0)、大阪談話会費(3.0)                    |
| 1933・8  | 115 | 112 | 3   | 0.8  | 14.7  | [2.0] |      |      |     | 2.8  | 2.5 | 1.8  | 5.0  | 大丸商品券(15.15)、自動車代(10.0)、大工はみ祝儀(10.0)、洋服洗濯丸(2.4)                 |
| 1933・9  | 308 | 298 | 10  | 14.5 | 19.1  | [2.5] |      |      |     | 2.8  | 2.5 | 1.8  | 5.0  | 家屋税(211.59)、瓦斯工事(11.41)、洋服洗濯丸(1.2)、月餅(1.1)                      |
| 1933・10 | 82  | 64  | 18  | 8.0  | 17.2  | [1.4] |      |      |     | 2.8  | 2.5 | 1.8  | 5.0  | 美術工業編(4.7)、洋服洗濯丸(3.0)   |
| 1933・11 | 101 | 78  | 23  | 8.3  | 21.3  | [2.1] |      |      |     | 2.8  | 2.5 | 1.8  | 5.0  | 防虫剤(5.54)、香燭(5.0)、漬物(3.15)、美濃紙(2.54)、洋服洗濯丸(1.5)                 |
| 1933・12 | 84  | 84  | 0   | 11.3 | 21.0  | [3.1] | 2.5  |      |     | 2.8  | 2.5 | 1.8  | 5.0  | 竹籠(7.8)、鳩居堂(2.06)   |
| 1934・1  | 101 | 93  | 8   |      | 31.7  | [3.3] | 8.4  |      |     | 2.8  | 2.5 | 1.8  | 5.0  | 正福寺知合会費(12.0)、大阪談話会費(3.0)、ラジオ電球取替(2.5)、正月餅(2.15)                |
| 1934・2  | 85  | 85  | 0   | 15.4 | 34.0  | [0.5] | 3.0  |      |     | 2.8  | 2.5 | 1.8  | 5.0  | 茶道月報(5.0)、時計修繕(1.0)、牛肉(0.9)                                     |
| 1934・3  | 103 | 103 | 0   | 19.1 | 38.9  | [0.6] | 3.9  |      |     | 2.8  | 2.5 | 1.8  | 5.0  | 香燭(5.0)、美術図録(4.7)   |
| 年月      | 入   | 出   | 差引  | 瓦斯代  | 電灯・電熱 | 電話料   | 水道料  | 旅費   | 市電  | 町会費  | 新聞代 | 花の会費 | 美術大観 | その他主要支出   |
| 1937・4  | 615 | 601 | 14  | 12.5 | [0.6] | [0.6] | 1.3  | 2.0  | 1.1 | 4.7  | 1.8 | 1.8  | 5.0  | 借地料・宅地租(416.28)、道路舗装(93.0)、相殺紙(39.72)、医師菓子料(6.0)                |
| 1937・5  | 109 | 92  | 17  | 15.0 | [0.9] | [0.8] | 5.8  | 5.8  | 2.0 | 1.0  | 1.8 | 1.8  | 5.0  | 医師薬療代(46.0)、掃除祝儀(4.5)、医師菓子料(2.0)、心付(2.0)                        |
| 1937・6  | 39  | 24  | 15  | 18.1 | 14.6  | [0.8] | 5.9  | 4.5  | 2.0 | 1.0  | 1.8 | 1.8  | 5.0  | 医師薬代(36.0)、大阪談話会費(3.0)  |
| 1937・7  | 72  | 71  | 1   | 4.7  | 14.6  | [1.8] | 3.5  | 3.5  | 1.0 | 8.4  | 1.2 | 1.8  | 5.0  | 佃煮(5.65)、御神酒(3.0)   |
| 1937・8  | 81  | 80  | 1   | 5.4  | 14.3  | [1.0] | 6.0  | 4.8  | 1.0 | 4.7  | 1.2 | 1.8  | 5.0  | 出征祝儀(13.0)、正福寺知合会費(12.0)、花屋祝儀(5.0)、墓守祝儀(3.0)                    |
| 1937・9  | 85  | 50  | 35  | 4.6  | 14.3  | [1.0] |      |      |     | 4.7  | 1.2 | 1.8  | 5.0  | 参詣香料(5.0)、出征祝儀(3.0)、名刺200枚(2.1)、後援会費(2.0)                       |
| 1937・10 | 61  | 60  | 1   |      | 14.3  | [1.0] | 7.6  | 4.8  | 1.1 | 1.0  | 1.2 | 1.8  | 5.0  | 防虫粉(2.5)、慰問袋(1.5)、菓子代(1.05)、救世軍寄付(1.0)、月餅ほか(1.0)                |
| 1937・11 | 57  | 57  | 0   |      | 14.3  | [2.4] |      | 4.2  | 1.0 | 3.7  | 1.2 | 1.8  | 5.0  | 光寿会費(10.0)、香燭(5.0)、軍人後援会費(4.0)、隣家葬儀(2.0)、更生会寄付(1.0)             |
| 1937・12 | 79  | 65  | 14  |      | 14.2  | [1.1] | 3.2  | 2.9  | 1.0 | 3.7  | 1.2 | 1.8  | 5.0  | 香燭(10.0)、花屋祝儀(5.0)、大根25把(4.5)、墓守祝儀(3.0)、大阪談話会費(3.0)、軍人後援会費(2.0) |
| 1938・1  | 78  | 70  | 8   |      | 17.3  | [1.9] |      | 6.0  | 1.0 | 3.7  | 1.2 | 1.8  | 5.0  | 正福寺知合会費(12.0)、いろは餅(8.1)、隣家葬儀(5.0)、軍人後援会費(2.0)                   |
| 1938・2  | 48  | 42  | 6   |      | 17.3  | [1.9] | 2.0  |      |     | 3.7  | 1.2 | 1.8  | 5.0  | 参詣香料(5.0)、軍人後援会費(2.0)、自動車代(1.2)、菓子代(1.0)                        |
| 1938・3  | 89  | 86  | 3   |      | 17.3  | [1.9] |      | 2.0  |     | 3.7  | 1.2 | 1.8  | 5.0  | 運送店支払(2.8)、自転車修繕(2.25)、軍人後援会費(2.0)、庭園掃除用箱(1.0)、救世軍寄付(1.0)       |
| 年月      | 入   | 出   | 差引  | 瓦斯代  | 電灯・電熱 | 電話料   | 水道料  | 旅費   | 市電  | 町会費  | 新聞代 | 花の会費 | 美術大観 | その他主要支出   |
| 1941・4  | 550 | 546 | 4   |      | 14.1  | [1.6] | 9.8  | 3.0  | 1.0 | 19.0 | 1.2 | 1.8  | 5.0  | 借地料(416.23)、芝刈ハヤミ(3.0)、自転車税(2.42)、台所時計修繕(1.3)                   |
| 1941・5  | 123 | 128 | △5  |      | 14.1  | [2.7] | 5.6  | 1.0  | 1.0 | 18.5 | 2.4 | 1.8  | 5.0  | 洗濯費(3.28)、蒲餅(2.5)、小安配給袋(1.5)、サイダー(1.26)、味の素(0.65)               |
| 1941・6  | 160 | 160 | 0   |      | 14.1  | [4.3] | 4.2  | 8.0  | 3.0 | 18.5 | 2.4 | 1.8  | 5.0  | ちまき(8.82)、写真代(4.04)、サイダー(3.78)、玉子(1.97)、佃煮(1.36)、牛肉(1.0)        |
| 1941・7  | 177 | 229 | △52 |      | 15.0  | [2.8] | 1.9  | 3.8  | 1.0 | 18.5 | 1.4 | 1.8  | 5.0  | 堂屋祝儀(7.0)、御神酒(3.0)、サイダー(2.52)、荷物送料(1.35)、茶燭(1.0)                |
| 1941・8  | 122 | 122 | 0   |      | 14.1  | [3.6] | 2.0  | 3.6  | 2.0 | 18.5 | 1.4 | 1.8  | 5.0  | 防虫粉(5.0)、植木屋祝儀(5.0)、墓守祝儀(3.0)、サイダー(2.52)、菓子(1.5)                |
| 1941・9  | 166 | 159 | 7   |      | 14.2  | [4.1] | 3.1  | 3.1  | 1.0 | 18.5 | 2.4 | 1.8  | 5.0  | 菓子(7.17)、本山香料(5.0)、防虫粉(4.0)、味噌(3.18)、サイダー(1.26)、蒲餅(1.25)        |
| 1941・10 | 183 | 183 | 0   |      | 14.1  | [6.2] | 9.9  | 7.9  | 1.0 | 18.5 | 2.4 | 1.8  | 5.0  | 光寿会費(10.0)、味噌(7.6)、菓子(6.67)、防虫粉(6.45)、籠(3.3)                    |
| 1941・11 | 152 | 148 | 4   |      | 13.4  | [4.1] |      | 3.5  | 2.0 | 18.5 | 2.4 | 1.8  | 5.0  | 貯蓄債券(30.0)、菓子(10.7)、懸節(3.02)、蒲餅(2.28)、味噌(2.14)、味噌(1.5)          |
| 1941・12 | 210 | 115 | 95  | 8.7  | 14.3  | [4.7] | 5.0  | 16.0 | 1.0 | 18.5 | 2.4 | 1.8  | 5.0  | 菓子(17.75)、植木屋祝儀(10.0)、防空紙(7.0)、味噌(4.0)、炭末袋(1.5)                 |
| 1942・1  | 145 | 143 | 2   |      | 15.9  | [1.7] | 15.2 | 1.0  | 1.0 | 18.5 | 2.4 | 1.8  | 5.0  | 菓子(10.8)、柳行奉(7.95)、ライオン歯磨(2.32)、溜(1.35)、茶(1.3)、粉石鹸(1.05)        |
| 1942・2  | 155 | 151 | 4   |      | 14.5  | [2.3] | 1.0  | 11.5 | 4.0 | 18.5 | 2.4 | 1.8  | 5.0  | ツルベ1組(7.25)、植木屋祝儀(5.0)、木炭(3.59)、防空用紙(3.51)、落シ紙(2.9)             |
| 1942・3  | 157 | 145 | 12  |      | 14.5  | [1.5] | 2.1  | 5.8  |     | 18.5 | 2.4 | 1.8  | 5.0  | 炭団(17.5)、佃煮(4.0)、魚(8.72)、菓天(4.2)、昆布(1.5)、蒲餅(1.2)                |

(出所) 前掲中西 穂・二谷智子『近代日本の消費と生活世界』352-353頁の表84より作成。

(注) 阿部市太郎家の金銭出入帳より、表で挙げた月の金銭出入合計、および主要な支出内容について示した。差引欄の△は収入より支出が多い場合を示す。電話料欄の[ ]内は市外通話料。項目の「花の会費」は花屋の顧客会員のことと思われる。項目の「美術大観」は阿部家が購入した図書シリーズ。

表3 1930年代阿部市太郎家夙川宅の日記にみる娯楽

| 年月      | 日付と内容  |
|---------|--|
| 1930・8  | 5日小学校水泳大会、6・13・14・18・19・20日甲子園野球見物、19日大丸買物、22日東京方面旅行、25日宝塚観劇、29日鳥巡り  |
| 1930・9  | 5日中座観劇、6日宝塚夜の部、活動写真見物、16日大丸買物、19日野球、21日御陵参り(奈良県)、24日博覧会・大阪百貨店、26日神戸松竹観劇  |
| 1930・10 | 3日大阪三越三彩会、5日大津三井寺行、9・23日大丸買物、9日松竹観劇、12日宝塚行・博覧会見物、13日浪花座観劇、15日御茶精古(大津)、17日オートバイに乗る、18日中座観劇、21日南座雪舟観劇、26日観劇式(吉野丸)、29日武庫郡体育大会 |
| 1930・11 | 3日無声会(赤穂)、4日早慶戦、8・22日御茶事、14日中座観劇、16・19・20・21・22日大丸買物(大阪・神戸)、29日南座観劇、30日ラグビー観戦  |
| 1930・12 | 2日歓見見物、3日御茶事、6日曾我廼家観劇、19日クラス会、23・24日大丸買物(大阪)   |
| 1931・1  | 1日清水神社参詣、14日甲子園ホテルにて新年会、20日中座観劇、21日神戸大丸買物  |
| 1931・2  | 11日大阪買物(大丸・阪急)、12日六甲登山、14日阪急へ買物、23日御茶事   |
| 1931・3  | 15日大丸流行会、15・22日甲子園行、16日宝塚嬢の助劇、19日阪急にて買物、21日信州方面へスキー、24日大阪へ買物   |
| 1931・4  | 2日甲子園・大阪行、4日クラス会、12日大津へ桜花見、20日観桜会、21日買物・歌舞伎観劇、25日京都嵐山観光  |
| 1931・5  | 2日阪急・白木屋・丸善など買物、5日京都南座雪舟劇観劇、6・24・28日大丸買物、10日バザール・三越買物、12・22・26日御茶事、16日松竹レビュー(大阪)   |
| 1931・6  | 2日南座観劇、5・23日御茶事、7日阪急にて買物、17日三越買物・中座観劇、26日大丸買物・松竹観劇、29日洋画入札展覧会  |
| 1931・7  | 3・11日御茶事、4日大丸立ち寄り、5日阪急にて買物、14・16日水泳、23日大阪へ買物、28日甲子園野球見物  |
| 1937・8  | 2日甲子園・水泳、11日中元大丸買物、16・22日アラスカにて食事(大阪)、17日宝塚行、18日西宮劇場にて映画、25日叡山ホテル泊、29日六甲山行   |
| 1937・9  | 6日阪急会館へ、10日大丸へ、17日大阪へ買物、23日つばき会・野球、26日ハイキング  |
| 1937・10 | 1日謡、2日ニュース(映画)を見る、6日阪急へ、9日朝日会館で新響音楽会、10日ハイキング、12日三越へ、15日アラスカにて夕食、19日墓参り(大津)  |
| 1937・11 | 2日三越へ、4日阪急買物、7日有馬へ、10・11・18日御茶事、12日松竹座、14日京都へドライブ、15日自動車で神社参詣、17日大丸へ   |
| 1937・12 | 14日つばき会納め、17日三越へ、22日謡稽古納め  |
| 1938・1  | 4日アラスカにて昼食、23日大丸へ、24日髪洗い・パーマネントかけ、27日神戸阪急会館にてオーケストラ  |
| 1938・2  | 13日ドライブ、19日大丸へ、23日御茶事、27日南郷山散歩・有馬行   |
| 1938・3  | 1日大丸・阪急へ、2・16日三越へ、3日ロッパス(劇)へ、5日阪急買物、16日御茶の稽古、20日京都滞在、23・30日御茶事   |
| 1938・4  | 3日京都方面花見・夕食琵琶湖ホテル、4日奈良立ち寄り、6日夕食吉光、7日御茶事、17日京都大徳寺へ、24日皇陵巡拝会、26日靖国神社大祭   |
| 1938・5  | 7日婚祝記念会(甲子園ホテル)、21日好話会、30日伊勢神社参拝   |
| 1938・6  | 14日好話会、19日皇陵巡拝会  |

(出所) 前掲中西聡・二谷智子『近代日本の消費と生活世界』355頁の表85より作成。

(注) 1930年代の阿部市太郎家の居宅は兵庫県夙川にあり、そこでの様子を当主の妻が記した日誌と考えられる。そのなかより、当主とその家族が参加・体験した行事や娯楽を挙げた。



百貨店の開設，そして沿線の宝塚での温泉開発と歌劇団の結成などを組み合わせ、都市郊外に住み、都市部への通勤と買物，そして休日の郊外遊覧地での娯楽を組み合わせた新たな交通文化圏を創り上げました<sup>7)</sup>。阿部市太郎家はこうした阪急交通文化圏のなかで、消費文化を享受しました。ただし日中戦争が始まると、そのような消費文化に変化が見られ、体力強化のためのハイキング、神社参拝など国策と親和性のある旅行・娯楽が行われるに至りました。

### 3 高度経済成長期日本の消費生活

第二次世界大戦後の農地改革と労働改革で、小作農の自作農化や労働者の諸権利が認められたことで、農家・労働者世帯の所得が増大し、戦時期の消費抑制の反動もあって、爆発的に消費が拡大しました。もっとも復興期当初の人々の消費需要の中心は着る物と食べ物で、まずは身近な消費需要を満たすため、繊維工業や食料品工業に新規企業の参入が見られました<sup>8)</sup>。それらが行き渡った1950年代から耐久消費財需要が増大し、家電産業・自動車産業の成長が見られましたが、耐久消費財の種類によって都市と農村の普及度合が異なりました。例えば、移動手段の少ない農村部では、都市部よりも乗用車の普及率が高く、農村部よりも温暖化が早く進んだ都市部では農村部よりもルームエアコンの普及率が高くなりました<sup>9)</sup>。もちろん、自動車の普及率の違いは、車庫などのスペースの問題もあったと考えられます。

東京標準世帯でどのような耐久消費財が所有されたかを表4に示しました。東京の標準100世帯のうち、どの程度の世帯が所有しているかを東京都が調査したもので、延べ数で集計しているため、複数個を所有した世帯があった場合は100を超えることもありました。日本では、1950年代後半～60年代が高度経済成長期とされますが、家具類では各種タンスは高度経済成長期以前に普及し、高度経済成長期は本棚が普及しました。道具類では、足踏みミシン・時計・カメラなどは高度経済成長期以前にすでに普及していました。そして電気用品は、1940年代後半～50年代前半の戦後復興期に、まず電気アイロンとラジオや蛍光灯類が普及し、50年代後半にテレビ・電気洗濯機・トースターが普及しました。その後、1960年代初頭に電動ミシン・電気こたつ・電気冷蔵庫が普及し、家電製品が家庭内でかなり利用されるようになりましたが、高度

表4 高度経済成長期東京都標準世帯耐久財所有状況(100世帯当たり所有数)

| 分類         | 商品         | 購入時期(1960年調査) |       |       | 1960年 | 1962年調査勤務先別 |     |     |
|------------|------------|---------------|-------|-------|-------|-------------|-----|-----|
|            |            | ～1945         | 46～56 | 57～60 |       | 卸小売業        | 製造業 | 公務  |
| 家具類        | 和ダンス       | 27            | 67    | 3     | 97    | 84          | 72  | 76  |
|            | 茶ダンス(食器戸棚) | 8             | 42    | 9     | 150   | 157         | 137 | 124 |
|            | 整理ダンス      | 3             | 71    | 19    | 93    | 141         | 109 | 109 |
|            | 洋服ダンス      | 5             | 62    | 11    | 78    | 84          | 78  | 82  |
|            | 本箱・本だな     | 18            | 56    | 30    | 104   | 89          | 82  | 76  |
|            | いすセット      | 0             | 12    | 11    | 23    | 14          | 16  | 6   |
|            | ベッド        |               |       |       |       | 27          | 4   | 6   |
| 道具類        | ミシン類       | 7             | 66    | 7     | 80    |             |     |     |
|            | 掛・置時計      | 7             | 100   | 40    | 147   | 178         | 146 | 168 |
|            | (氷)冷蔵庫     | 0             | 16    | 16    | 32    | 38          | 18  | 29  |
|            | 毛糸編機       | 1             | 30    | 21    | 52    | 65          | 54  | 56  |
|            | カメラ        | 5             | 47    | 27    | 79    | 92          | 84  | 129 |
|            | 自転車        |               |       |       |       | 35          | 40  | 44  |
| 電気         | 電気洗濯機      | 0             | 27    | 36    | 63    | 81          | 72  | 74  |
|            | 電気掃除機      |               | 1     | 9     | 10    | 38          | 21  | 38  |
|            | 電気こたつ      |               | 15    | 38    | 53    | 86          | 63  | 62  |
|            | 電気ストーブ     |               | 2     | 5     | 7     | 14          | 12  | 0   |
|            | 電気アイロン     | 5             | 87    | 15    | 107   |             |     |     |
|            | 電気釜        |               | 0     | 26    | 26    |             |     |     |
|            | ジャー        | 0             | 7     | 23    | 30    |             |     |     |
|            | 電気コンロ      | 0             | 13    | 5     | 18    |             |     |     |
|            | トースター      | 1             | 25    | 36    | 62    | 92          | 62  | 76  |
|            | ミキサー       |               | 7     | 4     | 11    |             |     |     |
|            | 電動ミシン      |               | 5     | 2     | 7     | 100         | 87  | 94  |
|            | 電気かみそり     |               | 2     | 7     | 9     | 24          | 14  | 18  |
|            | 蛍光灯        |               | 59    | 91    | 150   |             |     |     |
|            | 蛍光灯スタンド    |               | 12    | 35    | 47    |             |     |     |
|            | 電気スタンド     | 2             | 50    | 17    | 69    |             |     |     |
|            | 扇風機        | 1             | 11    | 15    | 27    |             |     |     |
|            | 電蓄(電気蓄音機)  |               | 15    | 6     | 21    | 19          | 12  | 9   |
| ラジオ        | 4          | 77            | 16    | 97    | 97    | 86          | 82  |     |
| 携帯用ラジオ     |            | 6             | 15    | 21    | 38    | 28          | 38  |     |
| テレビ受像機     |            | 7             | 70    | 77    | 97    | 95          | 97  |     |
| 電気(・ガス)冷蔵庫 |            | 0             | 7     | 7     | 32    | 33          | 26  |     |
| ガス         | ガスストーブ     | 1             | 17    | 14    | 32    | 51          | 26  | 50  |
|            | ガスコンロ      | 2             | 76    | 36    | 114   |             |     |     |
| 石油         | 石油ストーブ     |               | 2     | 3     | 5     | 16          | 16  | 12  |
|            | 石油コンロ      | 1             | 13    | 10    | 24    | 16          | 36  | 12  |
| 薪炭         | 火鉢(大)      | 10            | 76    | 9     | 95    |             |     |     |
|            | 火鉢(小)      | 7             | 30    | 4     | 41    |             |     |     |

(出所) 山口由等『近代日本の都市化と経済の歴史』東京経済情報出版、2014年、170-172頁より作成。

(注) 原資料は、東京都総務局統計部『東京都標準世帯家計調査結果表』。

経済成長期の東京でもまだ普及していない家電製品として電気ストーブと電気掃除機がありました。

熱効率、電気よりもガスの方がよいため、戦後復興期にガスコンロが普及し、高度経済成長期にガスストーブが普及しました。ところが、石油用品は全体的にあまり普及せず、石油は家庭用ではなく主に産業用燃料として利用されたと思われます。石油輸入が増大する以前の戦後復興期には薪炭が燃料材として家庭で用いられ、火鉢がかなり普及しました。

農村部での耐久消費財の普及を日記から検討します。表5は、愛知県葉栗郡北方に居住した村本利廣さんの日記から商品購入や娯楽について示したものです。村本さんは濃尾平野の農村部に居住していましたが、学校教員で名古屋の学校へ勤務していました<sup>10)</sup>。1930年代は園芸に関心を持ち、カメラを購入して写真撮影を楽しみましたが、第二次世界大戦下で厳しい生活を経験し、終戦後も食料不足が続いたようです。1950年頃より景気が回復し、57年に水道が開通し、家電製品として58年に白黒テレビ、62年に電気冷蔵庫を購入しました。1965年に流し台を新たに設け、退職後は趣味の園芸を専門的に行うため温室を建築しました。1971年にカラーテレビを購入し、72年にガス式風呂を設置して、現代に近い家庭生活となりました。百貨店には、戦前期からよく行っていたと思われる、趣味の園芸用の苗・球根を購入したり、婚礼関係の用品を購入しました。

#### 4 近代日本の資源・エネルギー問題

前述のように、日本の「消費社会」は、両大戦間期に大都市でその萌芽が見られ、第二次世界大戦後の高度経済成長期に農村部も含めて全国化しましたが、それは大都市部が山間部から資源を収奪するように利用したことや、戦後復興期における国内資源の極限的利用や、1960年代以降の安価な石油と木材の大量輸入によるものでした。その過程をエネルギー多消費型生活様式の成立と定着の側面から考察したいと思います。

最初に日本で水力発電が試みられるようになったのは1900年代でした。この時期の水力発電は、まだ小規模で地域社会向けであり、山間部での資源・エネルギーの地産地消の可能性が追求されていました<sup>11)</sup>。その事例を、島根県津

表5 「思出の記」にみる村本家の生活の変容

| 年月         | 記載内容 (主要な内容のみ示す)  |
|------------|---|
| 1919年4月    | 岐阜市立岐阜商業学校へ入学→自宅より通学  |
| 1921年4月    | 大阪市の綿布商社岩尾商店へ就職→大阪に住む   |
| 1923年4月    | 彦根高等商業学校へ入学→彦根で下宿生活、自炊生活、肉と野菜を煮て食べる、昼食はパンかうどん                                     |
| 1926年5月    | 名古屋高等商業学校商工経営科入学  |
| 1927年4月    | 名古屋市立第三商業学校の教師になる→自宅より通勤  |
| 1928年の回顧   | この年は園芸に親しむ(百合の球根を松坂屋で購入)、父死去  |
| 1931年の回顧   | 松坂屋で洋植物の原種を求める<br>年中ラジオに関心を持ち、バイオリンの練習に熱中   |
| 1932年4月    | 名古屋市立第二商業学校へ転任  |
| 1932年7月    | ブルドッグを飼う  |
| 1933年の回顧   | 裏の藪の開墾に励む   |
| 1934年の回顧   | 私は園芸に関心を持ち、母は文楽その他観劇に行かれ、弟はアイコン社のカメラで楽しんだ<br>母と妹は弟の案内で関西へ参拝旅行                     |
| 1935年1月    | 母と妹は弟の案内で関西へ参拝旅行  |
| 1936年      | コンタックスカメラ購入(1月)、シャリヤピンを公会堂で聴く(2月)、私の結婚(3月)  |
| 1937年      | エルマンの演奏を聴く(2月)、ライカの引き伸ばしレンズ購入(9月)   |
| 1938年の回顧   | 家庭では防空訓練・馬糧の供出・出征兵士見送り<br>1939年 子供生まれる(2月)、鯉鱈を贈られる(5月)→内祝いとして番茶セットのお返し(6月)        |
| 1940年の回顧   | 食糧事情が窮屈、学校では土地を借り受け薩摩芋を栽培、戦時に関わる講演や映画見物   |
| 1942年の回顧   | 内では栄養不足と睡眠不足に原因する風邪と胃腸障害で絶えず誰かが悪い   |
| 1943年の回顧   | 衣料も食料も配給制でもちろん不十分、薪炭も十分手に入らず乾し草で風呂をたく   |
| 1945年5月    | 名古屋市立女子商工学校へ転任  |
| 1947年の回顧   | 終戦後2年足らずで食料不足が特にひどく、皆一家は連続ジャガイモをゆでて6回に及ぶ<br>この頃の家族は月に一度も魚が食べられないほどである             |
| 1948年10月   | 勤務校が3校合併で名古屋市立西陵高等学校となる   |
| 1948年の回顧   | 戦時中武器の部品製造のために転換させられた繊維その他の中小工場は元の姿に帰り、日用品・生活必需品の製造を始めただけでも原料に乏しく物資の不足は昭和24年まで続いた |
| 1949年4月    | 一宮高等学校へ転任→通勤は以前より楽  |
| 1951年6月    | 朝鮮戦争休戦、日本は戦中・戦後の物資不足・インフレと非常に悩まされてきたが、この朝鮮戦争で一気に不況を吹き飛ばした                         |
| 1955年8月    | 内海へ海水浴へ行く、関西愛ラン会の交換会で宝塚へ行く  |
| 1957年の回顧   | この年水道ができて使い始め、その便利さを有難く思った。勝手手を改造し、流し台を設け、下台所を改造して応接間らしくして子供3人の勉強部屋に充てた           |
| 1958年の回顧   | この年白黒テレビを買う   |
| 1962年4月    | 息子大学卒業して就職→大阪府茨木に住む   |
| 1962年7月    | 名古屋駅前の三枝電機から初めて日立冷蔵庫を買う(51,800円)  |
| 1963年4月    | 津島商工学校へ転任   |
| 1963年8月    | 家族で伊豆旅行、8ミリ撮影機とコンダックス持参   |
| 1964年4月    | 一宮女子高校(私立)へ就職、津島商工学校より退職金(税引約420万円)   |
| 1964年5月    | 公立高等学校共済組合より年金証書受け取る(年金額約44万円)  |
| 1964年7月    | ナショナル扇風機購入(11,050円)、水銀庭園燈(10,720円)  |
| 1964年10月   | 温室建築(約114,000円)   |
| 1965年5月    | 息子の結納(約265,000円)、勝手場の修繕(流し台51,000円、ガス台10,500円、換気扇6,850円)                          |
| 1965年10月   | 息子の結婚式(都ホテル)→息子夫婦は大阪府茨木に借家  |
| 1967年4月    | 林高校へ就職  |
| 1967年9月    | 洗濯機「うず潮」を音響より購入(28,500円)  |
| 1967年11月   | オリエンタル中村(名古屋市の百貨店)でダイヤ指輪購入(137,200円)  |
| 1969年3月    | 林高校退職→再就職せず   |
| 1970年3月    | 娘大学卒業→5月より朝日料理教室へ通う   |
| 1971年12月   | 音響よりナショナルカラーテレビ購入(160,150円)   |
| 1972年3月    | 風呂取替(据置式バス(32,000円)、ノーリツ釜(60,000円)、ガス配管)  |
| 1972年8月    | 娘見合い→11月結納を受ける(小袖料30万、家内3万、リング36万)  |
| 1972年12月   | 松坂屋パーゲン、娘ルビーのリング(48,000円)、妻ハンドバック(12,000円)  |
| 1973年1月    | 松坂屋で婚礼家具購入(箆笥415,000円、茶棚30,800円、姿見)→3月3日到着  |
| 1973年3月8日  | 荷出しの日(松坂屋トラック係2人)→新居へ   |
| 1973年3月14日 | 娘結婚式→新婚旅行はアメリカ、引出物は珈琲セット42組(計94,500円)   |

(出所) 中西聡「戦前期における資産家層の贈答文化と生活」(『歴史と経済』第243号, 2019年) 第5表より作成。

(注) 村本利廣は、1903年生まれで自宅は愛知県栗原郡北方村にある。祖父は農業の傍ら呉服大物商を北方村で営み、父は繊維関係の組合に勤めていた。農業は自作農と考えられ、1912年の所得等級は24等級(所得金額500円程度)とされている(渋谷隆一編『都道府県別資産家地主総覧』愛知編2, 日本図書センター, 1997年, 120頁)。

和野地域と埼玉県名栗地域についてみてみます。鳥根県津和野地域には、近隣の畑迫村の資産家堀藤十郎家が笹ヶ谷鉱山を経営していましたが、堀家は、笹ヶ谷鉱山で産出された銅の製煉のための燃料を地元産の木炭に求めました。石炭は採掘された後は、比較的そのまま搬出されますが、金属鉱山の場合は、鉱石に含まれる金属を取り出すために、製煉工程が必要となります。その際に、鉱石を熔解する燃料が必要で、笹ヶ谷鉱山ではそれを木炭に求めていました。そして、堀家は笹ヶ谷鉱山周辺で官民林を買い受け、1906年には25万貫余の木炭を製造しました<sup>12)</sup>。

津和野地域では、1914年に地域社会向けの電力供給を目的とした石見水力電気会社が設立され、笹ヶ谷鉱山でも電力会社から電気エネルギーを購入して、多くの電動機を利用するようになりました。そして1917年には252馬力の電動機が設置されており、付帯事業としての木炭製造がなくなり、鉱山で使用する板類・角材製造のための製材機が設置されていました<sup>13)</sup>。つまり、自給自足の燃料木炭の利用から、地元で設立された水力電気会社の電気エネルギーを利用するようになり、代わりに木材は薪炭ではなく板類や角材に製材して利用するようになりました。笹ヶ谷鉱山では、堀家は製煉工場内に精米機を設置して、おそらく地元で生産された米を精米して鉱夫に供給しており、木炭のみでなく煉瓦も製造して製煉工程に供給しました。このように笹ヶ谷鉱山ではエネルギーや食料の自給が図られていたと言えます。

そして石見水力電気会社の発電所は、川から水を別の水路に分流して、分流した水の落下で発電した後は、その水をもとの川に戻すという水路式発電所であり、川の水をせき止めないために、他の川の利用者への迷惑を小さくする方式でした。しかも、その電気供給範囲は、地元に限られ、遠隔地の資本が津和野地域での水力発電を企図したのに対し、地元村会は、遠隔地にエネルギーが使われることを危惧して反対し、結果的に津和野地域では石見水力電気会社のみが水力発電事業を行うことができました<sup>14)</sup>。その意味で、津和野地域では地域利害と折り合った電源開発が行われ、資源・エネルギーの地産地消が一時的に達成されたと言えます。ただし、1920年代に笹ヶ谷鉱山の産出量が急減し、最終的に石見水力電気会社は鳥根県地域で最有力の電力会社の出雲電気会社に合併されました<sup>15)</sup>。

また、埼玉県名栗地域は、近世来の林業地で、東京へ薪炭や用材を供給して

いましたが、鉄道の開通とともに、丸太で東京市場へ送るのではなく、山元で製材して鉄道輸送を行いやすい板類や角材にして東京方面へ送ることが考えられました<sup>16)</sup>。そのため山元で製材工場が設置され、製材工場の製材機の動力源として電気が必要のため、名栗地域では林業家を中心に、発電事業が試みられました。特に、第一次世界大戦期の好景気で木材の売れ行きもよく、平沼家を始め製材業への展開を考える林業家も多く、製材工場向けの電力供給を行う発電所の建設が名栗村で計画されました。最初は、1910 年代に名栗川電気生産組合の設立が試みられましたが認可されず、1920 年 3 月に名栗村・原市場村を供給区域とする電気事業経営が許可されて、同年 8 月に名栗水電株式会社が設立されました。

表 6 をご覧下さい。名栗水電株式会社の有力株主は、いずれも地元の名栗村(上名栗・下名栗)と原市場村の人々で、社長には、材木商を営むとともに製材工場も経営していた下名栗の加藤幹一が就任し、専務に平沼彌太郎が、常務に平沼家と同じく上名栗の山林所有者であった吉田昭十郎が就任しました。表の出所資料を所蔵されている下名栗の豊住家も同社の有力株主でした。その後、名栗地域最大の林業家であった平沼家の同社所有株数が増大し、平沼家は飯能に製材工場、東京に支店を設けて、植林・伐出・製材・東京での販売を一貫して行いました<sup>17)</sup>。名栗水電の発電所は、有間川上流に取水口を設けた水路式発電所として建設され、認可出力は 217 キロワットでした。表 7 と表 8 をご覧下さい。名栗水電の発電所が電力供給を開始したのは 1922 年 8 月でしたが、まずは家庭用「電灯」が普及し、23・24 年の収入の大部分は電灯収入でした。予想される電力需要に比べて発電所の能力が大きく、かなりの設備投資を必要としたため、1923・24 年は赤字が続き、電気供給区域に小木曽村も加え、余剰電力を帝国電灯会社に売却することとしました。

開業当初の名栗水電の問題は、取水口を名栗川に設けずに支流の有間川に設けたため、渇水時などは、発電に十分な水量を確保できないことでした。ただし、木材流送との関係で名栗川の水量を奪うわけにいかず、帝国電灯への電力販売のために飯能に設立した変電所に火力発電機関を併設して、水量が少ない時はここで発電した電力で補充しました。山間部の林業地域は地形的には水力発電に向いており、製材工場などの需要もありますが、大規模な水力発電所を建設すると水量を多く使用して、木材流送を阻害します。名栗水電の場合は、



金額・配当率の単位：円・%

表7 名栗水電株式会社主要数値

| 年次     | 総収入    | 内電灯    | 内電力    | 内その他  | 総支出    | 内営業費   | 内支払利息  | 内償却    | 損益      | 前期繰越    | 合計     | 積立金   | 賞与  | 配当    | 配当率 | 後期繰越    | 送電量     | 取付馬力  |
|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|--------|-------|-----|-------|-----|---------|---------|-------|
| 1922 下 | 11,000 | 7,439  | 545    | 3,015 | 27,928 | 13,468 | 11,443 |        | △16,928 | △14,551 |        |       |     |       |     | △31,479 |         | 40.0  |
| 1923 上 | 15,697 | 11,169 | 1,212  | 3,315 | 23,864 | 9,038  | 14,461 |        | △8,166  | △31,479 |        |       |     |       |     | △39,645 |         |       |
| 1923 下 | 26,172 | 15,514 | 5,322  | 5,336 | 32,090 | 14,790 | 17,300 |        | △5,919  | △39,645 |        |       |     |       |     | △45,563 |         | 77.5  |
| 1924 上 | 22,653 | 15,049 | 4,975  | 2,628 | 25,027 | 10,276 | 14,751 |        | △2,375  | △45,563 |        |       |     |       |     | △47,938 |         |       |
| 1924 下 | 24,297 | 14,070 | 6,592  | 3,635 | 22,755 | 9,376  | 13,376 |        | 1,542   | △47,938 |        |       |     |       |     | △46,396 | 182,967 | 96.0  |
| 1925 上 | 26,796 | 14,918 | 7,790  | 4,268 | 21,882 | 12,055 | 9,826  |        | 5,095   | △46,396 |        |       |     |       |     | △41,301 |         |       |
| 1925 下 | 35,368 | 17,369 | 14,283 | 3,716 | 22,883 | 12,883 | 9,003  |        | 12,480  | 減資切捨    | 12,480 | 1,450 |     | 7,500 | 5.0 | 3,380   | 549,828 | 76.5  |
| 1926 上 | 30,081 | 15,619 | 10,661 | 3,805 | 20,338 | 12,908 | 7,430  |        | 9,743   | 3,380   | 13,123 | 1,700 | 100 | 7,500 | 5.0 | 3,823   |         |       |
| 1926 下 | 27,901 | 14,789 | 10,079 | 3,033 | 18,685 | 11,071 | 7,614  |        | 9,216   | 3,823   | 13,039 | 2,165 | 100 | 6,000 | 4.0 | 4,774   | 469,044 | 84.0  |
| 1927 上 | 28,407 | 15,370 | 9,349  | 3,688 | 17,616 | 10,019 | 7,596  |        | 10,791  | 4,774   | 15,566 | 3,240 | 100 | 6,000 | 4.0 | 6,226   |         |       |
| 1927 下 | 28,689 | 14,815 | 9,967  | 3,906 | 18,116 | 10,675 | 7,441  |        | 10,573  | 6,226   | 16,798 | 5,730 | 100 | 6,000 | 4.0 | 4,968   | 332,040 | 111.0 |
| 1928 上 | 30,089 | 15,314 | 10,537 | 4,238 | 20,468 | 13,147 | 7,320  |        | 9,621   | 4,968   | 14,589 | 3,700 | 100 | 6,000 | 4.0 | 4,789   |         |       |
| 1928 下 | 29,392 | 16,064 | 9,627  | 3,701 | 18,267 | 11,264 | 7,002  | 1,117  | 10,008  | 4,789   | 14,798 | 4,060 | 200 | 6,000 | 4.0 | 4,538   | 437,587 | 127.5 |
| 1929 上 | 28,871 | 15,489 | 9,584  | 3,798 | 18,148 | 11,688 | 6,460  | 2,482  | 8,240   | 4,538   | 12,778 | 1,700 | 200 | 6,000 | 4.0 | 4,878   |         |       |
| 1929 下 | 26,325 | 14,172 | 8,734  | 3,420 | 15,436 | 9,237  | 6,198  | 4,188  | 6,701   | 4,878   | 11,580 | 540   | 200 | 6,000 | 4.0 | 4,840   | 372,840 | 130.0 |
| 1930 上 | 25,013 | 13,757 | 7,903  | 3,454 | 15,710 | 9,756  | 5,954  | 3,948  | 5,354   | 4,840   | 10,195 | 470   | 200 | 6,000 | 4.0 | 3,525   |         |       |
| 1930 下 | 23,554 | 11,943 | 8,370  | 3,242 | 13,294 | 7,627  | 5,667  | 4,845  | 5,415   | 3,525   | 8,939  | 450   | 150 | 4,500 | 3.0 | 3,839   | 357,984 | 130.5 |
| 1931 上 | 25,605 | 13,604 | 8,437  | 3,563 | 14,025 | 8,679  | 5,346  | 5,126  | 6,454   | 3,839   | 10,293 | 930   | 150 | 5,400 | 3.6 | 3,813   |         |       |
| 1931 下 | 22,963 | 11,447 | 8,526  | 2,990 | 12,416 | 7,428  | 4,988  | 4,269  | 6,277   | 3,813   | 10,091 | 920   | 150 | 5,400 | 3.6 | 3,621   | 315,336 | 137.5 |
| 1932 上 | 22,591 | 11,925 | 7,619  | 3,047 | 11,816 | 7,077  | 4,739  | 4,322  | 6,452   | 3,621   | 10,074 | 935   | 150 | 5,400 | 3.6 | 3,589   |         |       |
| 1932 下 | 23,095 | 12,333 | 7,812  | 2,950 | 11,822 | 7,323  | 4,498  | 5,200  | 6,072   | 3,589   | 9,662  | 410   | 200 | 5,400 | 3.6 | 3,652   | 240,614 | 139.0 |
| 1933 上 | 22,129 | 11,721 | 7,313  | 3,095 | 12,268 | 7,906  | 4,362  | 4,300  | 5,561   | 3,652   | 9,213  | 370   | 200 | 5,400 | 3.6 | 3,243   |         |       |
| 1933 下 | 25,802 | 13,572 | 8,712  | 3,518 | 12,833 | 8,703  | 4,079  | 10,000 | 2,962   | 3,243   | 9,213  | 750   | 200 | 5,400 | —   | 5,463   | 209,808 | 143.3 |
| 1934 上 | 24,020 | 12,074 | 7,860  | 3,419 | 14,183 | 10,408 | 3,775  | 9,836  | —       | 5,463   | 5,463  | —     | —   | —     | —   | 5,463   |         |       |
| 1934 下 | 23,747 | 12,228 | 8,184  | 3,214 | 12,652 | 9,492  | 3,160  | 11,095 | —       | 5,463   | 5,463  | —     | —   | —     | —   | 5,463   | 133,658 | 153.3 |
| 1935 上 | 24,922 | 12,427 | 8,240  | 4,254 | 11,813 | 9,261  | 2,553  | 8,000  | 5,108   | 5,463   | 10,571 | 460   | 150 | 4,500 | 3.0 | 5,461   |         |       |
| 1935 下 | 24,021 | 12,690 | 7,674  | 3,657 | 11,723 | 9,395  | 2,328  | 7,500  | 4,798   | 5,461   | 10,260 | 440   | 150 | 4,500 | 3.0 | 5,170   | 134,361 | 139.3 |
| 1936 上 | 23,002 | 12,200 | 6,804  | 3,998 | 10,418 | 8,655  | 1,763  | 7,500  | 5,084   | 5,170   | 10,254 | 410   | 150 | 4,500 | 3.0 | 5,194   |         |       |
| 1936 下 | 23,944 | 12,053 | 8,227  | 3,664 | 10,527 | 8,921  | 1,606  | 8,500  | 4,917   | 5,194   | 10,112 | 450   | 200 | 4,500 | 3.0 | 4,962   | 157,218 | 123.8 |
| 1937 上 | 27,536 | 14,825 | 8,528  | 4,183 | 10,334 | 8,363  | 1,339  | 7,500  | 8,363   | 4,962   | 13,325 | 620   | 250 | 7,500 | 5.0 | 4,955   |         |       |
| 1937 下 | 28,100 | 15,265 | 9,033  | 3,802 | 11,127 | 9,924  | 1,203  | 13,500 | 3,473   | 4,955   | 8,428  | 450   | 250 | 7,500 | 5.0 | 228     | 211,626 | 132.5 |
| 1938 上 | 26,650 | 15,168 | 6,822  | 4,660 | 11,429 | 10,533 | 896    | 7,500  | 6,829   | 228     | 7,054  | 300   | 300 | 6,000 | 4.0 | 254     |         |       |
| 1938 下 | 24,940 | 13,647 | 7,996  | 3,297 | 11,018 | 10,546 | 472    | 12,000 | 1,922   | 254     | 7,176  | 500   | 300 | 6,000 | 4.0 | 576     | 78,606  | 144.3 |
| 1939 上 | 24,607 | 13,507 | 7,542  | 3,558 | 11,045 | 10,690 | 355    | 13,000 | 562     | 576     | 7,138  | 200   | 400 | 6,000 | 4.0 | 538     |         |       |
| 1939 下 | 19,363 | 10,182 | 7,727  | 1,453 | 8,317  | 8,164  | 153    | 11,046 |         |         |        |       |     |       |     |         | 249,678 | 163.0 |

(出所) 塩野武三編「事業譲渡記念史」名栗水電株式会社、1940年(豊住三芳家文書、豊住家蔵、飯能市立博物館寄託)より作成。  
 (注) 1939年下半期は8月～11月。送電量欄は特殊馬力送電量を示し、単位は毎時キロワット。取付馬力欄は電力需要家の取付馬力合計を示し、単位は馬力。繰越欄の無印は利益、△印は損失。1937～39年の配当率は、前掲「事業報告書(名栗水電株式会社)」より修正記載。



表 8 名栗水電株式会社営業概況

| 年・期    | 主要内容   |
|--------|--|
| 1922・下 | 名栗村・原市場村内に電灯供給開始（995戸、1,917灯）、帝国電灯会社へ電力供給の契約、そのため飯能町に変電所を設けるとともに東京府小曾木村へも電灯供給区域とする |
| 1923・上 | 小曾木村へ電灯供給開始（369戸、815灯）   |
| 1923・下 | 電動力による製材業の気運促進、帝国電灯会社への電力供給開始  |
| 1924・上 | 木材価格暴落により地元林業打撃を受ける、渇水時の電力補充のため火力発電設備購入  |
| 1924・下 | 電灯約5,000灯、電力約100馬力の営業を維持、飯能に渇水時用の火力発電設備設置  |
| 1925・上 | 木材価格低落による製材業への打撃と製織業者への金融梗塞の打撃で電力需用減退、電灯需用増大、渇水時用に火力発電所建設開始                        |
| 1925・下 | 減資をして電灯・電力料金の整理、工場を担保に日本興業銀行より低利借入   |
| 1926・上 | 経済界の不振と天候不順による水量減少で打撃を受ける、社費削減が課題  |
| 1926・下 | （帝国電灯会社が東京電灯会社に合併され）東京電灯会社へ電力供給開始、天候不順により発電量減退、電力料金値下げで需用喚起                        |
| 1927・上 | 電灯料金も値下げして需要喚起   |
| 1927・下 | 天候順調のため水量はあまり減らずに豊富な電力供給可能   |
| 1928・上 | 天候順調のため水量豊富で相当量の送電、小曾木村は綿織物の生産制限で電力需用減退  |
| 1928・下 | 水量豊富で相当量の送電、不況にも拘わらず工業電化の気分濃厚  |
| 1929・上 | 不況による打撃を受ける、渇水のため発電電力減退、電灯口数は増大、電灯料金収入順調   |
| 1929・下 | 恐慌の打撃はあるが天候順調で水量豊富のため発電量は増大  |
| 1930・上 | 繭価低落と木材不振および絹綿織物業の不況のため電灯・電力ともに使用状態停滞、天候不順で水量少なく発電量減退                              |
| 1930・下 | 木材・繭糸等は低下率甚だしき状態、会社経済の緊縮節約を断行し、一路堅実なる方針  |
| 1931・上 | 収入面では料金の積極的整理、支出面では緊縮整理と借入金減少  |
| 1931・下 | 電力では小馬力の需用増大、大口需用は減退、借入金償還による利子支払いの節約を図る   |
| 1932・上 | 大口電力需用は退歩の情勢、借入金返還による利子の通減と営業費の緊縮整理を断行   |
| 1932・下 | 絹織物業者は一時休業の余儀なき有様、我社の営業も不活発  |
| 1933・上 | 木材・絹織物は活気を呈するに至らず、我社の営業も沈静   |
| 1933・下 | 東京電灯会社への送電量が増大して収入増大したものの火力発電所維持費増大で支出も増加、借入金を減らす方針で減価償却をしたため無配当を断行                |
| 1934・上 | 渇水のため東京電灯会社への送電量が激減、春繭は安価、其他の商工業も活気を呈するに至らず、低利借換や電気工作物改修等に相当多額の費用を要す               |
| 1934・下 | 不活発ながらも需用増、総経費・諸税及び借入金の利子等は減額  |
| 1935・上 | 生産者がコスト削減のために原動力の設備を変更したため電灯・電力の需用減  |
| 1935・下 | 堅実な小口電力需用家は漸次増加傾向、水量が比較的順調のため飯能（火力）発電所の運転費軽減、支払利子も減少                               |
| 1936・上 | 有間川発電所の水車を取り換え   |
| 1936・下 | 天候順調による水量豊富のため飯能発電所の運転時数は減少  |
| 1937・上 | 一般産業が活況を呈す、我社の営業にも相当活発性を招致   |
| 1937・下 | 織物界が原料不足と消費不活発のために苦境、当地方経済は緩慢なる歩調  |
| 1938・上 | 地方経済界は比較的穏健なる歩調、我社の営業成績も概して良好  |
| 1938・下 | 経済統制のため物価は穏健なる歩調、我社の営業にも比較的良好的成績   |
| 1939・上 | 木材・生繭等の価格は好況、各種工業も順調な経営、我社の事業も比較的的良好<br>※逓信省の逕愈により東京電灯会社へ事業一切を譲渡（1939年7月31日）       |

（出所）各年度「事業報告書（名栗水電株式会社）」（豊住三芳家文書、豊住家蔵、飯能市立博物館寄託）より作成。

（注）「事業報告書」の営業概況の項目の記載内容をまとめたので、そのままの表記ではない場合が多い。

予想電力需要以上に発電設備の大きな発電所を建設したため、想像以上に水量が必要となり、安定した電力供給が行えない問題が生じました。

それを飯能火力発電所の建設で補った名栗水電は、1925 年下半期に工場を担保にして日本興業銀行から 11 万円を借り入れ、減資をして創業期の負債を解消しました<sup>18)</sup>。そして、製材工場や小木曾村への織物工場への電力供給も次第に増加して、比較的好調な電灯収入と合わせて 1920 年代後半の経営は安定しました。ところが、1929 年からの昭和恐慌が名栗水電の電力供給区域に大きな打撃を与え、名栗村・原市場村では木材類価格の下落による林業不況、小木曾村では製糸・織物業がアメリカへの生糸輸出の激減と織物価格の下落による打撃があり、1929～33 年にかけて電灯収入と電力収入ともに急減しました。ただし人件費も減少したことで営業費をそれなりに低く抑えることができ、利益を確保できたため、昭和恐慌下でも配当を維持しました。

名栗水電会社でそれが可能になった背景には、1920 年代後半の経営安定期に得た利益で借入金を返済して、支払利子を順調に減らしたことがありました。そして、1933～34 年に収益の全てを償却に回して借入金の返済をさらに進め、35 年からは支払利子がかかなり少なくなったことで、収益が回復し、年間 3% まで下がった配当率を 37 年には再び 5% に戻すことができました。電力需用者の取付馬力数からみて、昭和恐慌下でも工場での電動機の普及に伴って電力需要が増え、それと入れ違いに名栗水電の帝国電灯への送電量は次第に減少しました。ただし、このような名栗村・原市場村・小木曾村での電動機の普及が電力収益にあまり反映していないことが問題でした。実際、1937 年に名栗水電が東京電灯との合併を交渉した際に、東京電灯側が提示した名栗水電の買収金額は、名栗水電の予想よりかなり低く、名栗水電はさらなる不良資産の償却を進めざるを得ませんでした。1937 年下半期から名栗水電は利益のかかなりの部分を償却に回して不良資産の整理を進め、最終的に 39 年に、当初希望したのとはほぼ同じ買収額で、東京電灯に合併されました<sup>19)</sup>。

このように近代日本の山間部では、地域向けの小規模な水力発電事業を中心に、エネルギーの地産地消の試みが行われましたが、1920 年代の鉱山業の停滞や、外国からの安価な輸入材の影響で林業が苦しくなるなかで、その試みは挫折し、逆に山間部は都市化が進んだ大都市に向けてのエネルギー供給源とされました。エネルギー確保のために山間部へ進出した大都市資本の影響も大き

く、例えば長野県木曾地域では、1900年代後半に地元資本により設立された福島電気会社は、木曾山の電源開発を10年代後半から進めた名古屋電灯会社の系列の電気製鋼所に19年に合併されました<sup>20)</sup>。

近代日本の先進的林業地であった奈良県吉野地域でも、地元資本が設立した大和電気会社による電力供給をもとに、電動機を利用した製材事業が大規模に進められましたが、大阪に拠点を置く宇治川電気会社が紀伊山地の電源開発を進め、大和電気会社は1922年に宇治川電気会社に合併されました<sup>21)</sup>。こうして、本州中央部の山間地は、東京・名古屋・大阪など三大都市圏への電力供給地として編成されたのです。

電気事業のみでなく、大都市のガス会社も、それまで電灯用に用いられてきたガスが、ガス利用の台所用品の開発で、熱用に用いられるようになると、大都市でのガス需用が増大し、原料石炭を安定的に確保するため炭鉱業へ進出しました。表9をご覧ください。名古屋瓦斯会社は、第一次世界大戦期に石炭価格が上昇したことへの対応から、中央礦業会社・北海炭業会社を子会社として設立し、長崎県と北海道の鉱区を取得して、石炭採掘に乗り出しました<sup>22)</sup>。長崎県では中央礦業会社が矢岳鉱区を取得し、年間2万トン～3万トンの石炭を産出し、北海道では北海炭業会社が大和田炭礦会社から大和田鉱区を取得して、1920年前後には年間4万トン台の石炭を産出しました。ただし、1920年恐慌で石炭価格が下落したため、中央礦業・北海炭業ともに経営は苦しくなり、24年に北海炭業会社を中央礦業会社が合併して、中央礦業会社が大和田鉱区と矢岳鉱区の両方の採掘を行いました。

鉱山業のなかでも、産業用燃料材としての石炭利用が進展するとともに、薪炭が産業用ではなく家庭用に用いられるようになり、例えば、中国山地の金属鉱山の製煉過程で薪炭に代わって石炭が燃料材として利用されたり、1920年代に中国山地の金属鉱山の採掘量が急減するとともに、余剰となった大量の薪炭が都市部へ運ばれるようになりました。

表10と表11をご覧ください。これらの表は、鉄道で輸送された木炭の発送道府県と到着道府県を示したものです。1919年と24年を比べると、木炭の鉄道輸送量は、約118万トンから約164万トンに増大しました。東日本では、北海道や青森・岩手・秋田の北東北諸県で木炭の鉄道輸送量が増大し、北東北諸県から東京市へ大量に供給されました。北海道では道内の木炭の鉄道輸送が

表9 大和田鉱山(北海道留萌)・矢岳鉱山(長崎県)の概況 産出量・産出価額の単位:トン・円

| 年度    | ①大和田鉱区  |        |         |            | 営業概況(1923年までは北海炭業, 24年から中央炭業)   | ②矢岳鉱区   |        |           | 合計<br>産出量  |          |
|-------|---------|--------|---------|------------|---|---------|--------|-----------|------------|----------|
|       | 業権者     | 産出量    | 産出価額    | 土地面積       |   | 業権者     | 産出量    | 産出価額      |            | 鉱区面積     |
| 1914  | 大和田炭礦会社 | 18,492 | 67,319  |            | 水揚ポンプの蒸気機関を電力に変更する工事<br>生産費増大で利益減少, 採炭は順調<br>炭価低着で成績悪化, 石炭界不況<br>大和田炭礦への債務45万円を交渉で16万円に減額の契約成立<br>炭坑は先請負に付し, 経費節約を図る<br>北海炭業を合併, 大和田鉱区は先請負継続<br>塩田方面における石炭供給過剰のため成績不振<br>塩田の最盛期の4・5月に石炭需要旺盛<br>炭価低落のため成績不振<br>製塩業の活況で需要喚起, 生産費低下に努力<br>政府の製塩制限で需要激減, 矢岳鉱区も先請負契約締結<br>製塩業活況, 石炭消費回復で炭価回復<br>石炭界は需要旺盛, 炭価騰貴<br>会社解散, 矢岳鉱区売却(95,979円), 大和田鉱区整理 | 永井伊太郎   | 15,834 | 49,877    |            |          |
| 1915  | 大和田炭礦会社 | 23,668 | 80,309  |            |   | 名古屋瓦斯会社 | 17,243 | 108,627   | 495,000坪   |          |
| 1916  | 大和田炭礦会社 | 11,497 | 22,994  |            |   | 中央炭業会社  | 18,629 | 176,975   |            |          |
| 1917  | 大和田炭礦会社 | 19,425 | 59,123  |            |   | 中央炭業会社  | 21,340 | 192,060   |            |          |
| 1918  | 北海炭業会社  | 33,296 | 220,560 |            |   | 中央炭業会社  | 18,885 | 101,979   | 495,000坪   |          |
| 1919  | 北海炭業会社  | 41,235 | 490,328 | 1,968,352坪 |   |         |        |           |            |          |
| 1920  | 北海炭業会社  | 47,543 | 382,824 | 1,968,950坪 |   |         |        |           |            |          |
| 1921  | 北海炭業会社  | 16,214 | 68,314  | 1,968,039坪 |   |         |        |           |            |          |
| 1922  | 北海炭業会社  |        |         | 1,968,472坪 |   |         |        |           |            |          |
| 1923  | 北海炭業会社  |        |         | 4,410,472坪 |   |         | 河野直昌   | 18,224    | 109,344    | 726,832坪 |
| 1924上 | 中央炭業会社  |        |         | 2,390,224坪 |   |         |        |           |            | 13,846   |
| 1924下 | 中央炭業会社  |        |         | 1,658,374坪 |   |         | 中央炭業会社 | 1) 26,412 | 1) 130,449 | 726,832坪 |
| 1925上 | 中央炭業会社  |        |         | 1,658,374坪 |   |         |        |           |            | 15,374   |
| 1925下 | 中央炭業会社  |        |         | 476,638坪   |   |         | 中央炭業会社 | 1) 25,795 | 1) 116,078 | 726,832坪 |
| 1926上 | 中央炭業会社  |        |         | 476,638坪   |   |         |        |           |            | 15,998   |
| 1926下 | 中央炭業会社  |        |         | 476,638坪   |   |         | 中央炭業会社 | 1) 30,283 | 1) 124,826 | 726,832坪 |
| 1927上 | 中央炭業会社  |        |         | 476,638坪   |   |         |        |           |            | 18,165   |
| 1927下 | 中央炭業会社  |        |         | 476,638坪   |   |         | 中央炭業会社 |           |            | 15,757   |
| 1928上 | 中央炭業会社  |        |         | 476,638坪   |   |         |        |           |            | 22,324   |
| 1928下 | 中央炭業会社  |        |         |            |   |         |        |           |            | 17,099   |

(出所) 中西聡「近代日本のガス・電気事業と鉱山業」(『三田学会雑誌』第115巻3号, 2022年)の表5より作成。

(注) 北海炭業会社は, 上半期と下半期を合わせて年度に直した。中央炭業会社は, 矢岳鉱区で採掘しており, 1924年に北海炭業会社を合併して大和田鉱山を引継ぐ。大和田鉱区・矢岳鉱区の鉱区面積・土地面積は, 1818~23年度は年末時点で, 24年以降は各期末時点。右端の合計産出量は, 大和田鉱区と矢岳鉱区の合計産出量。営業概況の1924年以降は, 中央炭業会社の営業概況で, 大和田鉱区と矢岳鉱区の両方についての概況。1) 上半期・下半期合計(大正13~15年「本邦鉱業ノ趨勢」(藤原正人編『明治前期産業発達史資料』別冊80(1)~81(2), 明治文献資料刊行会, 1971年)より)。

表 10 1919 年木炭鉄道輸送発送・到着量主要道府県別一覽

| 発送\到着 | 単位：トン   |        |        |        |        |        |         |        |        |        |        |        |        |        |        |        |           |         |         |       |
|-------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------|---------|---------|-------|
|       | 北海道     | 北海道    | 福島県    | 茨城県    | 栃木県    | 埼玉県    | 千葉県     | 東京都    | 東京都    | 東京都    | 東京都    | 東京都    | 東京都    | 東京都    | 東京都    | 東京都    | 東京都       | その他も計   | 自道府県    | 比率(%) |
| 北海道   | 170,069 | —      | —      | —      | —      | —      | —       | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —      | —         | 170,209 | 170,069 | 99.9  |
| 青森県   | —       | 131    | 667    | 1,397  | 1,057  | 819    | 4,667   | 53,424 | 1,124  | 5,103  | 8      | 15     | 15     | —      | —      | —      | —         | 75,333  | 4,858   | 6.5   |
| 岩手県   | —       | —      | —      | 1,057  | 1,295  | 3,392  | 1,981   | 48,720 | 6,575  | 4,608  | —      | 48     | 48     | —      | —      | —      | —         | 71,012  | 5,350   | 7.5   |
| 秋田県   | —       | 21     | 672    | 780    | 2,829  | 2,117  | 492     | 25,490 | 214    | 347    | 26     | 62     | 62     | —      | —      | —      | —         | 42,584  | 6,699   | 15.7  |
| 山形県   | —       | —      | 4,702  | 2,852  | 2,607  | 877    | 79      | 5,921  | 186    | 129    | 1      | 71     | 14     | —      | —      | —      | —         | 29,741  | 10,115  | 34.0  |
| 宮城県   | —       | —      | 4,741  | 589    | 212    | 832    | 1,685   | 13,820 | 507    | 1,562  | 36     | 889    | 44     | —      | —      | —      | —         | 31,978  | 6,356   | 19.9  |
| 福島県   | —       | —      | 13,938 | 7,965  | 4,607  | 10,453 | 5,686   | 60,965 | 5,014  | 896    | 31     | 1,814  | 46     | —      | —      | —      | —         | 114,887 | 13,938  | 12.1  |
| 茨城県   | —       | —      | 88     | 2,215  | 51     | 1,764  | 297     | 12,703 | 972    | 66     | —      | 71     | —      | —      | —      | —      | —         | 18,254  | 2,215   | 12.1  |
| 栃木県   | —       | —      | 206    | 2,209  | 3,395  | 6,827  | 308     | 68,574 | 3,160  | 157    | 11     | 325    | 28     | —      | —      | —      | —         | 85,835  | 3,395   | 4.0   |
| 群馬県   | —       | —      | —      | 55     | 2,475  | 1,308  | 43      | 5,522  | 1,333  | 190    | —      | 128    | 75     | —      | —      | —      | —         | 15,301  | 4,128   | 27.0  |
| 新潟県   | —       | —      | 414    | 249    | 283    | 2,569  | 198     | 20,959 | 537    | 678    | 106    | 249    | 5,750  | 25     | 106    | 1      | 40        | 49,758  | 11,691  | 23.5  |
| 長野県   | —       | —      | 8      | 413    | 886    | 2,849  | 664     | 5,540  | 752    | 353    | 32     | 879    | 14,004 | 41     | 32     | 54     | —         | 31,513  | 14,004  | 44.4  |
| 山梨県   | —       | —      | —      | —      | 6      | 683    | 32      | 4,173  | 9,578  | 350    | —      | 219    | 135    | —      | —      | —      | —         | 16,049  | 866     | 5.4   |
| 静岡県   | —       | —      | —      | 24     | —      | 95     | 7       | 3,269  | 935    | 9,464  | 89     | 8,997  | 8      | 8      | 89     | —      | —         | 27,886  | 3,304   | 11.8  |
| 石川県   | —       | —      | 8      | 86     | 1      | 1,962  | 120     | 7,530  | 1,105  | 1,963  | 194    | 2,594  | 1,536  | 74     | 194    | 39     | 28        | 21,340  | 1,809   | 8.5   |
| 福井県   | —       | —      | —      | 7      | 13     | 19     | 305     | 2,364  | 2,008  | 13,724 | 883    | 4,075  | 67     | 2,687  | 883    | 101    | 71        | 35,745  | 2,523   | 7.1   |
| 大坂市   | —       | —      | —      | —      | 16     | 227    | —       | 710    | 8      | 343    | 1      | 30     | 12,103 | 146    | 83     | 103    | 7         | 19,619  | 146     | 0.7   |
| 兵庫県   | —       | —      | —      | —      | —      | —      | —       | 176    | —      | 7      | —      | 8      | 3,512  | 7,097  | 18,622 | 10,790 | 1         | 43,002  | 10,790  | 25.1  |
| 鳥取県   | —       | —      | —      | 10     | —      | 8      | 8       | 415    | —      | 32     | 32     | 235    | 554    | 2,350  | 4,577  | 5,580  | 2,349     | 21,490  | 1,776   | 8.3   |
| 島根県   | —       | —      | —      | —      | —      | 60     | —       | 1,297  | 269    | 29     | —      | 21     | 683    | 2,265  | 2,264  | 4,807  | 1,796     | 25,952  | 5,736   | 22.1  |
| 熊本県   | —       | —      | —      | —      | —      | —      | 15      | 224    | —      | 23     | —      | —      | 143    | 289    | 77     | 928    | 284       | 27,258  | 8,118   | 29.8  |
| 宮崎県   | —       | —      | —      | —      | —      | 102    | —       | 2,520  | 15     | 275    | —      | 399    | 465    | 9,814  | 4,654  | 2,025  | 314       | 43,793  | 3,290   | 7.5   |
| 鹿児島県  | —       | —      | —      | —      | —      | 8      | —       | 360    | 46     | —      | —      | 7      | 905    | 186    | 3,145  | 1,045  | 273       | 23,746  | 1,167   | 4.9   |
| その他も計 | 170,102 | 25,656 | 20,198 | 19,086 | 43,229 | 21,187 | 367,166 | 34,301 | 43,338 | 26,882 | 25,891 | 43,223 | 31,708 | 45,999 | 21,521 | 38,779 | 1,184,195 |         |         |       |
| 自道府県  | 170,069 | 13,938 | 2,215  | 3,395  | 3,272  | 3,935  | 2,777   | 1,278  | 54     | 54     | 2,422  | 14,004 | 78     | 146    | 941    | 10,790 | 4,767     |         |         |       |
| 比率(%) | 100.0   | 54.3   | 11.0   | 17.8   | 7.6    | 18.6   | 0.8     | 3.7    | 0.1    | 9.0    | 54.1   | 0.2    | 0.5    | 2.0    | 50.1   | 12.3   |           |         |         |       |

(出所) 大正 8 年中「鉄道輸送主要貨物数量表」(商品流通史研究会編『近代日本商品流通史資料』第 11 巻、日本経済評論社、1979 年)より作成。  
 (注) 東京府欄は東京市を除く。神奈川県欄は横浜市を除く。発着量・到着量がそれぞれ 15,000 トン以上の道府県を選び、縦の欄を発送道府県、横の欄を到着道府県として、相互の輸送量を示した。その他も計欄は他の道府県・朝鮮の分も含む。比率は、発送分・到着分に占める同じ道府県内の輸送量の比率を示す。



多いですが、これは北海道の港への鉄道輸送で、そこから海運で各地に木炭が輸送されたと考えられます。西日本では、島根県や熊本・宮崎・鹿児島の中九州諸県で木炭の鉄道輸送量が増大し、島根県からは大阪市・神戸市へ、宮崎県からは京都市へ大量の木炭が供給されました。宮崎県は江戸時代から「日向炭」としてブランド化した木炭の特産地で<sup>23)</sup>、宮崎県産の高級木炭が京都市で好まれたと考えられます。

こうして1920年代には、安価な電力・ガスと大量の薪炭が大都市圏へ供給され、大都市でエネルギー多消費型の生活様式の萌芽が見られました。そして、そのエネルギー多消費型の生活様式が定着したのが、第二次世界大戦後の高度経済成長期であったと考えられます。次節では、そのプロセスを述べます。

## 5 現代日本の資源・エネルギー問題

第二次世界大戦で敗北した日本は、朝鮮・台湾・南樺太などの植民地および満洲国などの勢力圏を失いました。これらの植民地・勢力圏には、石油や鉄鉱石資源はあまりありませんでしたが、林産資源と石炭資源は比較的豊富にありました<sup>24)</sup>。そのため、それらの喪失後は、経済復興のために日本の国内資源の極限の利用が目指されました。日本の国内資源の多くは山間部に残され、前述のようにそれは鉱物資源・林産資源・水資源でした。

鉱物資源については、何よりも燃料材としての石炭が重要で、傾斜生産と呼ばれるように、人員と資材を炭鉱に向けて石炭増産が行われました。この時の炭鉱は主に北海道で、産出された石炭は、北海道では石炭ストーブなど家庭用に主に用いられましたが、北海道以外では、石炭ストーブは住宅の構造上あまり普及せず、蒸気機関車などの蒸気機関の燃料炭として主に用いられました<sup>25)</sup>。家庭用として重要なのは、これらの石炭を原料として製造された都市ガスで、都市生活における台所用熱用エネルギーとして重要でした。

林産資源については、外国からの輸入が制限されているなかでは、薪炭も重要な燃料材で、森林伐採が急速に進んで薪炭が製造され、伐採後は政府が補助金を支給して積極的な植林事業が進められました<sup>26)</sup>。これは拡大造林と呼ばれ、薪炭材・用材が大量に供給されることで復興期の需要に対応しました。また、水資源については、近代期の水路式水力発電ではなく、ダム式水力発電技術が

発達したことで、大規模なダム式発電所が山間地に多数設立され、そこから大都市への長距離送電が行われました<sup>27)</sup>。こうして1950年代は、鉱物資源・林産資源・水資源を極限的に利用するなかで、経済復興が図られ、それは、ある意味では、日本全国を一つの地域とした「エネルギーの地産地消」であったとも言えます。ところが、この極限の利用が、その後の展開に負の遺産をもたらすことになりました。

経済復興を遂げた日本が国際社会に復帰して、貿易が自由に行えるようになると、1960年代から安価な石油と安価な木材が大量に輸入されるようになりました。それにより、火力発電の燃料が石炭から石油へ転換し、燃料コストが低下したことから、電気事業において水力発電中心から火力発電中心への転換が生じました<sup>28)</sup>。また、ガス製造の原料も石炭から石油に転換しました。石油への転換で大きかったのは、プロパンガス製造が可能になったことです。それまでのガス供給は、ガス管を通しての供給で設備投資が過大のためにガス供給区域は需要の多い都市部に限られましたが、プロパンガスはガスボンベに詰めてそこから供給が可能のため、ガス管の敷設しにくい農村部でもガス供給が可能になりました。そして輸送機関も、蒸気機関車からディーゼル機関車・電車への転換が進みました。

こうして、安価な石油の大量輸入は、消費生活のすみずみまで影響を与え、エネルギー多消費型生活様式を定着させるとともに、プロパンガスの普及がこうした生活様式の全国化を進めました<sup>29)</sup>。一方、安価な外国産材の大量輸入は、国産材の価格急落を招き、採算が合わないため国産材の伐出が行われなくなりました。こうした変化のなかで、水力発電用のダムの無人化、炭鉱の放置、森林の放置が進行します。これらは、災害への対応力が弱まることを意味しており、現代日本の大きな環境問題となっています。

もちろん、こうした状況を改善する機会も、これまでもあり、1970年代の石油ショックの際に、政府や人々は、単一のエネルギー源に頼ることの危険性を認知しました。ところが、電気事業は水力発電に戻ることはなく、石油火力発電から原子力発電への転換を進める方向へ政府は動きました。また、ガスの原料として石炭に戻る方向は見られず、石油から主に輸入天然ガスへ現在は移っています。そして薪炭は、燃料源として顧みられることはなく、森林資源の過少利用の状況は現在も続いています<sup>30)</sup>。



## 6 おわりに

このような現代日本のエネルギー問題への対処を、消費者の視点から考察して、本講演のまとめに代えたいと思います。輸入資源に頼ることの危険性は、石油ショックの際に高コストになった経験もあり、おそらく生産者は深刻に認識していると思われます。ところが、消費者は安価なものを求め続けてきました。私は、経済学には、生産費に利潤が足されて販売価格が決まるという考え方の足し算の経済学と、販売価格からコストを引いて利潤が決まるという考え方の引き算の経済学があると感じていますが、現代は、この引き算の経済学の考え方が経済活動を規定しています。このなかでは、市場で購入してもらえる価格が販売価格であり、利潤を上げるために、生産者はより安い資源・原料・人件費を求めざるを得ません。そのため、日本の生産者は、生産拠点を海外へ求めたり、あるいは資源・原料を安価な輸入品に依存しました。

ところが、石油や天然ガスなどの安価な資源・エネルギーは、埋蔵量に限界があり、しかもその利用による二酸化炭素の排出が、環境に多大の負荷をかけていることが明らかにされています。さらに、代替エネルギーとされてきた原子力発電も、万一の被害と使用後の廃棄物処理の問題が大きいことが自明となりました。

そして、輸入資源に頼ることのコスト面でのリスクを生産者に負担させることに限界が生じていることは、昨今の販売商品の値上げから明らかとなっています。とすれば、ここは、生産費に利潤が足されて販売価格が決まるという足し算の経済学に立ち返って、消費者の意識改革をすることが重要と考えられます。つまり安価なものではなく、地元産のものを購入することで、持続的な経済社会を支えるという視点です。

かつて、1930年代の昭和恐慌下の農村を巡回した地理学者の三澤勝衛は、恐慌からの回復のためにはそれぞれの風土に適応した産業を興すことが重要として、「風土産業」の観念から地産地消を提唱しました<sup>31)</sup>。原材料・製品の輸送費を考えれば、地元産の産物が本来は販売市場で有利になるはずであり、その点で、1900年代～10年代に日本の山間部で試みられた「資源・エネルギーの地産地消」を再評価する必要があるように思われます。

【注】

- 1) 鉱山懇話会編『日本鉱業発達史』中巻, 鉱山懇話会, 1932 年, 19 頁を参照。
- 2) 満菌勇『日本型大衆消費社会への胎動 — 戦前期日本の通信販売と月賦販売』東京大学出版会, 2014 年, 中西聡・二谷智子『近代日本の消費と生活世界』吉川弘文館, 2018 年。
- 3) 山口由等『近代日本の都市化と経済の歴史』東京経済情報出版, 2014 年を参照。
- 4) 中西聡編『日本経済の歴史 — 列島経済史入門』名古屋大学出版会, 2013 年, 223 頁。
- 5) 以下の記述は, 前掲中西聡・二谷智子『近代日本の消費と生活世界』第 5 章を参照。
- 6) 以下の記述は, 同上, 第 8 章を参照。
- 7) 阪急交通文化圏については, 竹村民郎『笑楽の系譜 — 都市と余暇文化』同文館出版, 1996 年, 第 4 章を参照。
- 8) 池元有一「製粉業」, 渡辺純子「綿工業」(いずれも武田晴人編『戦後復興期の企業行動 — 立ち上がった障害とその克服』有斐閣, 2008 年)を参照。
- 9) 清水洋三「都市化と農村の変貌」(石井寛治・原朗・武田晴人編『日本経済史 5 高度成長期』東京大学出版会, 2010 年)を参照。
- 10) 村本家については, 中西聡「戦前期における資産家層の贈答文化と生活」(『歴史と経済』243 号, 2019 年)を参照。
- 11) 西野寿章『日本地域電化史論 — 住民が電気を灯した歴史に学ぶ』日本経済評論社, 2020 年を参照。
- 12) 明治 39 年「本邦鉱業一斑」(藤原正人編『明治前期産業発達史資料』別冊 83(4), 明治文献資料刊行会, 1971 年) 144 頁を参照。
- 13) 大正 6 年「本邦重要鉱山要覧」(同上, 別冊 88(4)) 507-508 頁を参照。
- 14) 大庭良美編『日原町史』近代上巻, 日原町教育委員会, 1976 年, 223-224 頁を参照。
- 15) 中国地方電気事業史編集委員会編『中国地方電気事業史』中国電力株式会社, 1974 年, 171-172 頁を参照。
- 16) 以下の記述は, 飯能市名栗村史編集委員会編『名栗の歴史』下巻, 飯能市教育委員会, 2010 年, 214-226 頁を参照。
- 17) 中西聡「近代日本における林業経営の特質とその展開」(『社会経済史学』第 87 巻 3 号, 2021 年)を参照。
- 18) 塩野武三編『事業譲渡記念史』名栗水電株式会社, 1940 年 (豊住三芳家文書, 豊住家蔵, 飯能市立博物館寄託) 31 頁を参照。
- 19) 昭和 14 年 8 月 18 日「会社ノ解散ト事業譲渡ニ関スル提案理由ニ就テ」(『事業報告書綴 (名栗水電株式会社)』)に綴り込み, 豊住三芳家文書, 豊住家蔵, 飯能市立博物館寄託)。
- 20) 中西聡「近代期の木曾銀行と木曾地域経済」(『地方金融史研究』51 号, 2020 年)。
- 21) 中西聡『資産家資本主義の生成 — 近代日本の資本市場と金融』慶應義塾大学出版会, 2019 年, 第 2 章を参照。
- 22) 名古屋瓦斯会社については, 東邦瓦斯株式会社編『社史 東邦瓦斯株式会社』同社, 1957 年, および中西聡「近代日本のガス・電気事業と鉱山業」(『三田学会雑誌』第 115 巻 3 号, 2022 年)を参照。
- 23) 三井文庫編『近世後期における主要物価の動態』(増補改訂版) 東京大学出版会, 1989 年を参照。
- 24) 山本有造『日本植民地経済史研究』名古屋大学出版会, 1992 年, 同『「満洲国」経済史研究』名古屋大学出版会, 2003 年, 堀和生『東アジア資本主義史論 — 形成・構造・展開』第

- 1 巻, ミネルヴァ書房, 2009 年などを参照。
- 25) 杉山伸也・牛島利明編著『日本石炭産業の衰退 — 戦後北海道における企業と地域』慶應義塾大学出版会, 2012 年を参照。
  - 26) 1959 年版『日本林業年鑑』林野共済会, 1959 年, 64 頁を参照。
  - 27) 東京電力株式会社編『関東の電気事業と東京電力』東京電力株式会社, 2002 年を参照。
  - 28) 小堀聡『日本のエネルギー革命 — 資源小国の近現代』名古屋大学出版会, 2010 年などを参照。
  - 29) 鈴木淳『新技術の社会誌』(シリーズ日本の近代) 中央公論新社, 2013 年を参照。
  - 30) 高柳友彦「森林資源と土地所有」(中西聡編『経済社会の歴史 — 生活からの経済史入門』名古屋大学出版会, 2017 年) を参照。
  - 31) 三澤勝衛『風土の発見と創造 — 三澤勝衛著作集 3 風土産業』農山漁村文化協会, 2008 年。

(付記) 史料閲覧に際し, 豊住家の皆様および飯能市立博物館に大変お世話になりました。記して, 心より感謝申し上げます。本講演では, 平成 29~令和 2 年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (B)「大正・昭和期における住宅関連産業の展開と「暮らし」の変容に関する総合的研究」(研究代表者: 中西聡, 課題番号: 17H02552), 令和 3~4 年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (B)「20 世紀前半期日本における生業・生活金融の地域的展開に関する総合的研究」(研究代表者: 中西聡, 課題番号: 21H00735) および 2020~2022 年度慶應義塾大学学事振興資金研究助成「林業・鉱山業・水力発電からみた「資源国」近代日本の経済構造と展開」(研究代表者: 中西聡) による研究成果の一部を利用している。

(なかにし・さとる 慶應義塾大学経済学部教授)